

MITSUBISHI

三菱電気産業用除湿機据付説明書

形名 KFH-2・3・5C1
RFH-2・3・5B1 (室内機 RF-2・3・5B1)
RFH-2・3・5A1 (室外機 RV-2・3・5A)

警告

| | |
|---|---|
| 据え付けは、販売店または専門業者に依頼する。 ご自分で据付工事を行なわれると、火災・感電・水漏れ等の原因になります。 | 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部に配線の外力が伝わらないよう確実に固定する。 接続や固定に不備があると、火災・感電等の原因になります。 |
| 小部屋へ据え付ける場合は、冷媒が漏れても限界濃度を越えない対策をする。 万一冷媒が漏れて限界濃度を越えると、酸欠事故の原因になります。限界濃度を越えない対策については、お買い上げの販売店にご相談ください。 | 配線は、パネル端子カバーが浮き上がらないように整形し、パネルや端子カバーを確実に取り付ける。 パネルやカバーの取り付けに不備があると、端子接続部の発熱・火災・感電の原因になります。 |
| 空気清浄機・加湿器・暖房用ヒーターなどの別売品は、必ず当社指定の製品を使用し、取付けは専門業者に依頼する。 ご自分で取り付けをされ不備があると、火災・感電・水漏れ等の原因になります。 | 作業中に冷媒ガスが漏れた場合は、換気する。 冷媒ガスが火気に触れると、有毒ガスが発生する原因になります。 |
| 据付工事は、据付説明書に従って確実に進行。 据え付けに不備があると、火災・感電・水漏れ等の原因になります。 | 設置工事後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。 冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロなどの火気に触れると、有毒ガスが発生する原因になります。 |
| 据え付けは、製品重量に十分耐える所に確実に進行。 強度が不足している場合は、製品の落下・転倒等によるケガの原因になります。 | お客様自身で分解・修理・移設はしない。 修理・設置等に不備があると、発熱・火災・感電・水漏れ等の原因になります。お買い上げの販売店または専門業者に相談してください。 |
| 台風などの強風、地震等に備え、所定の取付工事を行う。 据付工事に不備があると、製品の落下・転倒等によるケガの原因になります。 | 電気工事業者によるD種(第3種)接地工事を確実に進行。 アースが不完全な場合は、感電の原因になります。 |
| 電気工事は、電気工事士の資格のある方が、『電気設備に関する技術基準』【内線規程】及び据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。 ※電源容量不足や施工不良があると、火災・感電等の原因になります。 | 安全装置・保護装置の設定値変更はしない。 設定値を変更すると、ユニットの破損・発火の原因となります。 |
| | 冷凍サイクル内に指定冷媒以外の冷媒や空気などを混入させないでください。 混入すると、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂・ケガの原因になります。 |

安全のために必ず守ること

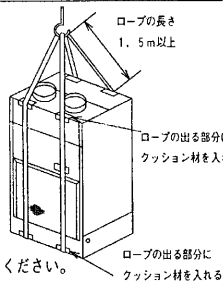
- 据付けの前に、この「安全のために必ず守ること」をよくお読みのうえ正しく据付けてください。
 - ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- | | |
|----|--|
| 警告 | 誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷等の重大な結果に結び付く可能性が大きいもの。 |
| 注意 | 誤った取扱いをしたときに、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。 |
- お読みになったあとは、取扱説明書とともに、いつでも見られる所に保管して、移設時に読み直してください。

注意

| | |
|---|---|
| D種(第3種)接地工事を行う。 アース線は、ガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しないでください。アースに不備があると、感電の原因になることがあります。 | ブレーカーやヒューズは正しい容量のものを使用する。 針金や銅線を使用すると、火災や故障の原因になることがあります。 |
| 水のある場所に設置する場合は、漏電ブレーカーを取り付ける。 漏電ブレーカーが取り付けられていないと、感電の原因になることがあります。 | 据付台などが傷んだ状態で放置しない。 製品の落下につながり、ケガの原因になることがあります。 |
| 可燃性ガスの漏れる恐れのある場所には設置しない。 万一ガスが漏れて製品の周囲にたまり、発火の原因になることがあります。 | 特殊雰囲気中では使用しない。 機械油・塩分・揮発・粉塵の多い所、温泉地帯、硫化ガス・揮発性ガス・腐食性ガス等が充満している所、高圧加工機などの近くに設置すると、故障の原因になることがあります。 |
| ドレン配管工事は、据付説明書に従って確実に施工し、結露が生じないように断熱処理する。 配管工事に不備があると水漏れし、床材などをぬらす原因になることがあります。 | 圧縮機や冷媒配管などに素手で触れない。 冷媒の状態により高温あるいは低温になり、火傷・凍傷の原因になることがあります。 |
| 室外機のファンガードを取り外さない。 ファンが露出し、ケガの原因になることがあります。 | 製品内部の金属エッジに素手で触れない。 ケガの原因になることがあります。 |
| 通信事業所・病院などに設置する場合は、ノイズに対する備えを十分に行う。 インバータ機器・自家発電機・医療機器・通信機器などによるエアコンの振動や、エアコン側からの影響により、医療機器・通信機器などの誤作動などの原因になることがあります。 | サービスバルブ操作時は、冷媒噴出に注意すること。 サービスバルブ操作時は、冷媒が噴出します。このとき冷媒を吸ひたり、裸肌で冷媒ガスに触れると、ケガの原因になることがあります。 |
| 食品・動植物・精密機器・美術品の保存等特殊用途については、確認の上使用する。 本来の用途以外に使用すると、品質低下等の原因になることがあります。お買い上げの販売店にご相談ください。 | 保護装置を短絡して、強制的な運転をさせない。 短絡して強制的な運転を行うと、ユニットの火災や爆発の原因となる場合があります。 |

1. 搬入

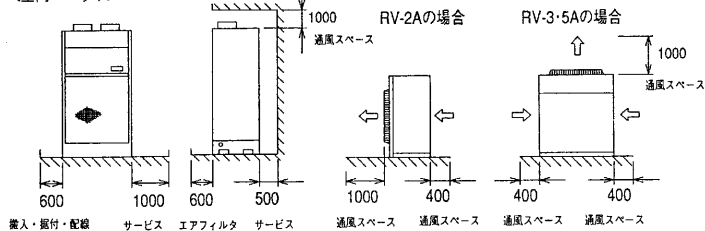
- できるだけ静かに運び30°以上傾けないでください。
- ユニットを吊上げる場合は、できるだけ木枠梱包の状態ですり位置まで移動させてください。
万一、ユニットに直接ロープをかける場合は右図に示す用にユニットに傷がつかないように、クッション材を用いてください。
- ロープが短いとユニットに無理な力がかかります。
ロープは右図の寸法以上の長さにしてください。



2. 据付

- 設置場所は、本体荷重に見合う強固な床面等を選定し、水平に設置してください。
- 室内ユニット及び室外ユニットとも据付穴を使用し、床面に固定してください。
- ユニットの保守サービスが容易に出来るように、下図に示したスペースを確保してください。
- 風路に障害物がなく良好な気流分布になるような場所を選定してください。

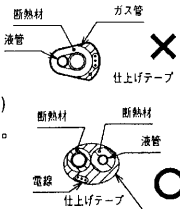
<室内ユニット>



3. 配管工事 (RFH形のみ)

- 室内ユニットと室外ユニットを下表に示す配管で接続してください。

| 形名 | 冷媒出口 | 冷媒入口 |
|------------------|--------|--------|
| RFH-2B1, RFH-3B1 | φ15.88 | φ12.7 |
| RFH-5B1 | φ19.05 | φ15.88 |



- 尚、ろう付時は、乾燥窒素ガス等の不活性ガスを流してください。
- 冷媒配管には必ず十分な断熱を行ってください。(右図を参考にしてください。)
- 室内ユニットと室外ユニットの高低差および最大配管長さは下表のとおりです。

| 最大配管長さ | 許容高低差 | |
|--------|----------|----------|
| | 室外機が上の場合 | 室外機が下の場合 |
| 20m | 20m | 5m |

- 出入口操作弁を閉めた状態で操作弁のサービスポートから真空引きしてください。
- 配管長さが5m以下の場合は追加冷媒チャージは不要です。
配管長さが5mを越える場合は下表の量だけ追加冷媒チャージしてください。

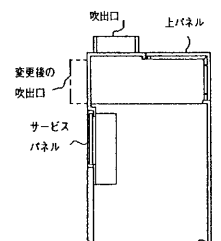
| 形名 | 冷媒 | 配管長さ追加冷媒量 (g) | | | |
|------------------|-----|---------------|-----|------|------|
| | | 5m | 10m | 15m | 20m |
| RFH-2B1, RFH-3B1 | R22 | 0 | 500 | 1000 | 1500 |
| RFH-5B1 | R22 | 0 | 800 | 1600 | 2400 |

4. ドレン配管

- ドレン配管は、十分落差を取るよう配管してください。
- ドレン配管に露が付くことがありますので防露の必要がある場合は、防露工事(断熱工事)を施してください。
- ドレン配管接続口は、左右変更可能です。右側への変更要領は、取扱説明書を参照してください。

5. 吹出方向の変更

- ※吹出方向は、出荷時上吹出しにしていますが、前吹出しに変更が可能です。変更は次の手順で行ってください。
- エアフィルタを取り外して、サービスパネル下部のネジ2本を外してサービスパネルを取り外します。
 - 上パネルの側面のネジを外して上パネルを取り外します。
 - 吹出口の後面2本および下部2本のネジを外して吹出口を外します。
 - 吹出方向が前吹出になるように吹出口をセットし、上記の逆の手順で、それぞれ取り付けてください。



6. 電気工事

- 電源電圧は、リレーボックス電源端子部で、運転中は±10%。始動時の最低で定格電圧の85%以上を確保してください。
- 必ず、ユニット専用の手元開閉器、漏電しゃ断器を設けてください。
- 感電防止のためアースは必ず施工してください。
(アース端子はリレーボックス内に設けてあります。)

| 形名 | RFH-2B1 KFH-2C1 | RFH-3B1 KFH-3C1 | RFH-5B1 KFH-5C1 |
|----------|--------------------|--------------------|--------------------|
| 電源配線太さ※1 | φ2.0(24mまで) | φ2.6(27mまで) | φ3.2(20mまで) |
| 過電流保護器 | 20A | 30A | 50A |
| 開閉器容量 | 60A | | |
| アース線太さ | φ1.6以上 | | |
| 進相コンデンサ | 容量 40/30μF | 容量 50/40μF | 容量 75/50μF |
| 電動機 | 配線太さ φ1.6以上 | φ2.0以上 | |

※1 金属管配管の場合を示します。

<KFH-2・3C1, RFH-2・3B1の場合>

- 圧縮機逆回転を防止する為、逆相防止装置を組込んであり、圧縮機が始動する場合は、送風機も正回転するようにしています。
- もし、圧縮機および送風機が始動しない場合は、電源配線のR相とT相の2本を入れ替えてください。

<KFH-5C1, RFH-5B1の場合>

- 試運転をする時は、右図のように矢印方向に送風機が回転しているか吹出口より見て確認してください。
- もし逆回転しているときは、電源配線のR相とT相の2本を入れ替えて正しく回転させてください。

